

かれる大会だ。」と強調されました。「裏金問題で岸田政権の支持率が低迷する中でも大

# 第41回全国大会に参加して

西濃支部 岡崎 和子



6月19日、20日と東京で全国大会が開かれました。

岐阜県からは、高井節子さんと岡崎の二名が参加しました。前日からの激しい雨を心配していましたが、天候に恵まれ、一日間とも討議に集中できました。

開会してすぐ黙祷、名誉会長など役員だけでなく、「全国の同盟員」と当たり前に明記されていた名簿。岐阜県の亡くなられた方々が浮かびました。

始めに、吉田万三会長が挨拶されました。「来年は治安維持法が施行されて100年、大きな時代の節

目にさしかかった時期に開催されました。「裏金問題で岸田政権の支持率が低迷する中でも大

岐阜県版  
第408号  
2024年7月15日

治安維持法賠償同盟  
岐阜県本部  
〒500-8879  
岐阜市徹明通7-13  
岐阜県教育会館308号室  
Tel 058-252-5366  
振替00840-2-88638

- 私たちの運動の基本  
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
  - 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法である事を認めること
  - 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事

軍拡は着々と進行している「武器輸出を解禁したり、『経済秘密保護法』で国民監視を拡大している」と語られました。

次に日本共産党国會議員と自由法曹団事務局長の来賓の挨拶があり、討議に移りました。

た。

「大会の活動報告と活動方針案」は、前に「不屈」全国版に掲載されています。中央本部事務局長の田中幹夫氏からさらに詳しく文書で補足されました。「請願署名と第51回目の国会請願について」、「大会成功めざす特別期間の取り組み」「地方議会での意見書採択」等々報告がありました。また、同盟活動への提案として、「会員拡大」「支部建設を強めましょう」「女性部確立を」「青年会員を増やし青年支部交流会を開催しよう」「学習テキスト」を全会員に普及しよう」と続きました。

岐阜県の24年度の方針に反映させたいと考えています。

一日目は7人の方の発言があり、討議が終わりました。

今回の大会は、この後に記念講演「治安維持法施行100年と日本国憲法」渡辺治(一



# 治安維持法公布来年で100年 国賠同盟が全国大会

治安維持法犠牲者国で岸田文雄政権の支持家賠要求同盟は19率が低迷する中でも、日、東京都内で第41回 大軍拡は「着々と進行全国大会を開きまししている」と述べ、岸た。治安維持法が公布されて、来年で100年を迎えます。今大会

護法で國民監視を拡大したり「經濟秘密保禁したり「經濟秘密保いを推進する」と述べています。

運動方針案では、「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」という最大のスローガンを掲げて運動してきた成果を確信に、「新たなる歩を踏み出そう」と呼びかけています。

代議員・評議員12人でやつてくる」と述べています。国賠同盟の針(案)は「戦争と弾圧はスクランブルを組んだ

大会2日目の20日には、特別決議「東京都知事選で蓮舫候補の勝利を目指す」が採択され、あいさつした吉田万三会長は、「裏金問題」の大軍拡を推進する「岸田自公政権の暴走を食三会長は、「裏金問題」

論では、高知県の代議員で日本共産党的な愛眞議が、有事をの節目にさしかかっただ」と強調しました。時期に開かれる大会に整備する「特定利用

港湾」に同県内の三つの港が選ばれると発言。「平和が危機にさらされている」と世論が高まっている。元自衛隊員の若者が「反対に立ち上がっている」と紹介しました。

渡辺治・一橋大学名誉教授が講演。日本共産党の山添拓参院議員が出席しました。



第41回全国大会

治安維持法犠牲者國家賠償要求同盟の全国大会であいさつする、吉田万三会長(中央) II  
19日、東京都文京区

## 戦中の日本（一）

恵那支部 田口 進

(戦前の日本から戦中の日本を連載する)  
(はじめに)

戦前、反戦平和を求めて闘った人々は弾圧され、そして日本国民は無謀な太平洋戦争に引きずり込まれ、遠い南の島々で餓えと病により三百万人以上の兵士が死んでいきました。日本軍が石油、その他の資源を求めて侵略した国々で三千万人以上の現地の人を殺しました。国内では、大都市は焼き尽くされ、ヒロシマ、ナガサキには原爆が落とされ戦後八〇年経つても放射能の被害で苦しんでいる人達が大勢います。この戦争による犠牲に誰が責任を取るのでしよう。戦争被災者は保障と尊厳を求めて今日闘っています。

日本は戦後新しい憲法を作り、諸国民と共に平和に生きることを誓ったのです。

しかし、今、日本は戦後最大の平和の危機を迎えてます。国と軍は急速に右傾化し軍事費を増大させ、日本は世界第三位の軍事大国にならうとしています。沖縄南西諸島ではミサイル基地が進められて、台湾有事になれば第三次世界大戦に引きずります。今大会の任務に、

り込まれる危険があります。

そして、報道規制、学問の自由が奪われています。

今こそ私達は「新しい戦前」にさせないために戦争に反対し、平和を願う多くの人々と共に手を携えて「平和と自由」を守つていかなければと思います。

### (一) 阿多古の生活、魚釣り、ウナギ取り

僕は疎開して一番嬉しかったのは川遊びと魚釣りだった。

学校から帰るとすぐ釣り竿を担いで川へ魚

釣りに行つた。始めは上手く釣れなかつたが、だんだん慣れてくると魚がこの時間、何処にいるか分かることになる。そのポイントに餌をポンと落とすと「ガバッ」という音をたてて餌に食らひつく。

一時間位で川を一巡りすると魚籠に三〇匹ぐらい釣れていた。ほとんどが「ハヤ」と呼ばれる魚で家に帰つて暖炉裏で塩焼きにして食べたり味噌汁の出しに使つたりした。

腹に吸盤のある「ズンゴウ」という岩場に棲む魚も良く食いついてきたが、この魚は焼いても固くてまずかつたのでその場で逃がした。

遠州灘の河口と天竜川に近い本格的な山脈を流れる阿多古川にはダムがなく多くの魚が遡上したり、秋になると川下りする「ズガニ」「ウナギ」「アユ」等がいてそれを捕獲する川漁師がたくさんいた。

ほとんど川漁師は大工、左官、山師、獵師

と兼業を川漁が解禁されると一斉に川漁師になつた。

戦争が激しくなるとみんな兵隊に取られた。

NHK「消えていく人々」の中で縄文時代からそのため子供達でも魚をいっぱい捕まえる」とが出来た。僕もウナギ釣りで一晩に一二四も釣つたことがある。

### (二) 川の民

日本は戦争末期頃になると軍需品ばかり生産し商店には売る商品がなくなり、農家も農具や生活必需品を手に入れる事が出来なくなり壊れた農具や竹籠は修理して使うしか方法がなかつたのです。

夏の或日、竹籠の修理をする一家が僕の家に近い河原にてントを張り修理をする仕事を始めました。子供がいましたが学校には来ないで竹で「ランコを作つて遊んでいました。

村では「の人達の」ことを「川太」と呼んでいました。(川の民が呼び名だったかも知れません)

竹細工の立派な腕を持ち、みんなの壊れた籠の修理をたのみお礼を出しました。

彼等「川太」は竹筒を鏽がわりにして「飯を

炊き、石を焼いてその上で魚を焼いて食べていいました。(僕達NPO法人で「子どもの学校」等で竹筒料理などですいぶん真似をしました。

恵那地方では付知川の竹籠作りの人達を「木

イト」土岐川では「オゲ」矢作川では「ボンスケ」

と言い、独特の文化と文字を持つた民だった。

NHK「消えていく人々」の中で縄文時代から大勢の人々が川をさか登つて奥地を切り開き定住地を広げていった。とある)

### (三) 軍国美談「木口小平」

昭和一九年、一〇年頃になると教科書がなかつた。クラスの子の兄さんや姉さんが以前使つていた古い教科書を持って来て、みんなかわるがわる読んで勉強した。

その中に「キグチコヘイ、テキノタマニアタリマシタガシンデモラッパラ、クチカラスナシマゼンデシタ」。これは、兵士の忠烈な戦死を非人間的な忠勇の死にすりかえて幼い心にたたき込んだ話です。「木口小平」が仰向に倒れラップを口に当てたまま死んでいる図入りの修身の教科書の教えは後に続く何人の「木口小平」を作り出したんだろか。

大戦末期、特攻隊員達が「靖国で会おう」を合言葉に大空に散つて行った。

### (四) 軍国美談「一太郎やあーい」

一太郎の母は軍国の母である。

戦前の不況の中、将来兵として召集する多くの子ども達はみんな貧しい農民の子が多く、「これらの子を「忠君愛國」の戦士として育てる」には美談が必要であった。

一太郎の場合事実は全く違つていた。一太郎は召集令状が来て出征する前夜「バクチ」で

家屋敷、田畠まで取られてしまった。母親が

港まで追つてきて「一太郎やあ〜い、田畠はどうするんだ」と叫んだと言われている。それが

教科書では、「の母の言葉は「うちのことは心配するな。天子様に良く」と奉公するんだよ」と叫び、分かつたら鉄砲を高く上げろとなり、それを見た郡長はじめ見送りの人々はみんな泣いた。という事にすり替えられた。戦前の美談は「のように事実をすり替え、幼き子に天皇のために闘えと脳裏にしつかり忠君愛国精神を叩き込むのが狙いだった。

### (五) 戦中の教育

大戦末期になると商店に品物が一切なくなり、子ども達は下駄やわら草履などみんな自分で手作りした。作れない子は裸足で学校に通つた。男の先生は兵隊に取られ、かわりに村内の農協や工場の事務員の女性が臨時先生として学校へ來た。クラスの人数が少ない」ともあり男女共学であった。「私は頼まれただけで先生やないからみんなに上手に教えんから何かやってほしい事はないか」と言うと女の子が手を上げて「頭のシラミを捕つてほしい」と言つた。

その頃「ヘミ」「シラミ」がいづぱいで退治できずにみんな困つていた。さうそく新聞紙を広げて櫛で「そげて頭の毛ジラミを落とした。ボト

ボト音がした。それを石で潰すのは男の子の役

目だった。

### (六) 中津川での戦争末期の出来事

#### ①スペイに気をつける

出征兵士は愛国婦人会、学校児童生徒、一般村民に日の丸の旗で、駅で見送られた。

しかし、戦争末期になるとそういう歓呼の声で送られての出征の光景はなくなっていた。

神坂では召集者に「スペイに気づかれぬよう

に軍服を着ないでゆかたで来い」とか、「酒びんをさげて、手に釣り竿を持つて」「等の召集の指示で、諏訪神社にお参りした後、落合駅まで近親者だけで見送つた。ひとつそりとした戦争末期をを思わせる光景であった。

連隊の門をくぐると、そこに門番が待ち構えていて「キサマ、軍隊をなめているのか」と言つていきなりぶんざられれた。ゆかたを剥がされ軍服に着替えさせられた。釣り竿や酒びんは上官に取り上げられた。

#### ② 鬼畜米英のわら人形

中津川駅前に「鬼畜米英」と書いた立て札と大男のわら人形が立つていた。日玉は青く塗つてあり、国防軍人がそばに立つて、そばに竹槍が置いてあった。

しかし、本当の理由は出征兵士よりも、戦死者の遺骨の白い箱を胸に下げ悲しい顔をして汽車を降りてくる婦人の数がだんだん多くなってきたからである。

雪駄やゆかたを着て歩いてくる人を見ると

で叫ぶと「ようし、帰れ」と言われて歩きかけると「歩調どれー」と国防軍人が怒鳴つた。(中津川駅前に住んでいた小島登志夫談)

#### ③ 出征兵士へのベンザイ制限

中津川の出征兵士の見送りは、公民館前等で行なわれ、小学校五年生が集い、そ

れぞれの団体挨拶の後出征兵士が決意を述べ駅前まで行進した。

小学生が小旗を振り「勝つてみんなと勇ましく誓つて國を出たからは…」軍歌を歌いながらベンザイを叫び続けた。

太平洋戦争末期になると國から指示があり、「防諜目的のため駅前でのベンザイは三回までと制限されました。出征兵士の決意も挨拶も短くなり「自分は國家のために死んできます」「自分は天皇のために死にます」「自分は死にます」と短くなり、見送る人々も少なくなりました。

